

南部地域療育センターそよ風 2021 年度保護者等からの事業所評価の集計結果

1. 自己評価概要

実施時期	2022 年 2 月 7 日～2 月 18 日	回答方法	アンケート用紙による匿名回答
回答状況	配布 55 人、回答 41 人、回収率 75 %		
公表	2022 年 3 月 31 日		

2. 自己評価集計結果

区分	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	保護者のご意見	ご意見を踏まえた対応
1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	35	4	2	0	・人数の割には部屋が狭いと感じます。ロッカーも一人ひとつだと嬉しいです。	・必要位に応じて遊戯室や屋上を利用し、子どもの活動が出来るようにします。 ・ロッカーに関して、壁にフックを付けるなどして対応します。
2	職員の配置数や専門性は適切であるか。	31	7	2	1	・訓練の先生を増やしてほしい(予約が取りにくい) ・外(公園)に行くときには職員の数を増やしてくれるとありがたいです。	・外出時は必要に応じて応援体制を付けます。 ・
3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また障害特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	33	6	0	2	・完全にバリアフリーにはなっていないと思う。 ・少々自由に出入りしすぎるような気もします。	・危険がある場合は鍵をかけるなどの対応をします。 ・段差を減らす工夫をします。
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか。	33	6	0	0	・机に何日か前の食べ残しがついていたことがあり、心配です。	・机の使用前後は消毒を徹底し、清潔を保ちます。
5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか。	40	0	0	0	・こちらの出来てほしいことをくみ取ったうえで課題が作られていると感ずる。	
6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	40	0	0	1	・ガイドラインの知識が不足しており判断できない。 ・適切であると思う。	・不明な点は丁寧に説明します。
7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	39	0	0	1	・計画に沿った支援がされていると思う。	・引き続き発達支援計画を作成していきます。
8	活動プログラムが固定化されないよう工夫されているか	38	0	0	3	・手先や、身体を使う活動、他者を意識する活動…いろいろできていて素晴らしいと思う。	
9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流など、地域の子どもと活動する機会があるか。	5	8	18	10	・関わりがないように思える、年少時よりそういった機会を作ってほしい。 ・必要性を感じません。	・菜の花との催し物から交流をしていきます。
10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか。	39	2	0	0	・入園時説明会により説明を受けています。	
11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか。	39	0	0	1	・説明はされたかもしれないけれど自分の知識不足により記憶に残っていない。 ・されている。	・その都度丁寧に説明をしていきます。
12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)がおこなわれているか。	34	4	0	7	・あまり機会がなかったように思います。 ・コロナ等制約がある中で工夫して行われていると思う。	・規制がある中でできる対応を工夫していきます。

13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状態、課題について共通理解ができているか。	39	1	0	0	・バスの先生に伝えたことが担任に伝わっていないことがあるので正確に伝えるようにしてほしいです。 ・連絡ノートはわかりやすいです	・職員間での丁寧な伝達を行います。
14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか。	35	3	0	1	・コロナなので機会があまりなかったように感じる。 ・いろいろと相談にのっていただいて感謝しています。	・必要に応じて個人懇談や親子療育、親子登園日に助言などの支援を行います。 ・相談を促す周知をします。
15	保護者会の活動支援や保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか。	29	11	0	1	・コロナ禍で交流が少なかった。 ・LINE、zoom等により、工夫して支援されている。	・親の会や親子登園日での交流を行います。
16	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか。	37	2	0	0	・いつも充分に手厚く対応していただいている。困り事も共有し、一緒に考えてもらっている。結果はもとより寄り添ってくれるだけで保護者としては救われます。 ・一斉メールでタイムリーに連絡を受けている。	
17	子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされているか。	37	3	0	1	・電話がつながりにくいことが多く、困ることがあります。 ・送迎時や連絡ノートでやり取りができています。	・電話対応は端的にし、時間短縮を心がけます。
18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか。	36	2	0	3	・休むことが多く、プリントがたまってしまい見落とししてしまうこともある。情報も遅くなってしまうので、可能であればきずなネットを活用してもらえると助かります。	・必要に応じて個人に伝えたり、絆ネットを用いて発信をしていきます。 ・新たな伝達手段を考えていきます。
19	個人情報の取扱いに十分注意されているか。	39	2	0	0	・個人情報はおたより等にてお知らせしてくれています。(写真、ビデオ等)	
20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	34	5	1	1	・防災についてはあまり知りません。災害や感染症への配慮は知っています。 ・定期的に行われています。	・頃中で親子での訓練が難しいため、防災訓練の様子を伝えるおたより等を考えていきます。
21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか。	39	2	0	0	・されていると思う。	
22	子どもは通所を楽しみにしているか。	40	1	0	0	・先生やお友だちとあそぶことが楽しいようです。 ・本当に楽しそうに通っています。	
23	事業所の支援に満足しているか。	39	2	0	0	・家族だけではできない体験をもっとさせてほしいかった。 ・子どもに寄り添った保育をしてくださった。	・今後も子どもたちの経験を広げる取り組みを積極的に行います。

以上の結果を公表致します。頂いた意見をもとに、保育内容等の改善に努めていきます。
アンケートへのご回答ありがとうございました

管理者（園長）：佐藤明裕
 児童発達支援管理責任者：濱田美穂
 療育主任：小原千里

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年3月26日

事業所名 南部地域療育センターそよ風

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		親子登園の日や子どもの状況によっては狭く感じる。	・必要に応じて部屋以外のスペースを活用する。
	2 職員の配置数は適切である	○		日々の体制によっては、必要なクラスに職員をプラスして配置している。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		子どもに応じて工夫されている。	・段差を少なくする工夫をする。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている		○	完全にかけている場所は、職員間で話し合っ直してきているが、まだまだ心地よく過ごせる環境は整っていない。	・西館の自由なスペースの確保→テラスを活用したり、隣のクラスとの交流を進める。 ・西館の網戸の修繕、本館の木の扉の開閉修繕など、安全衛生委員会からの意見を踏まえ、必要な所から修繕する。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		朝礼等で共有している。	・
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		毎年評価表を記入していたが、業務改善に努めている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	評価結果を共有する機会がない。	・第三者評価は実施していない。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		年数に合わせたものを受けけるようにしている。	・
適切な支援	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		顔を合わせる機会をつくりながら話を聞く。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	書籍にて個々で確認している。	・支援計画などは使用しているが、標準化されたものは用いていない。

の 提 供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		見直して振り返っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		クラスのケースで、担任同士が意見を出し合い、あそび作りをしている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		工夫はしているが、あそびの幅を広げる努力が必要。	・他クラスや他事業所の実践から学ぶ。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼前に打ち合わせを入れ、役割の確認、動きなどを共有している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終了後にできない場合は、休憩のタイミングで話せるところまでこまめに振り返っている。	・朝の朝礼前の時間に補えるようになった。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		週案に記録している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		年に二回行っている。	
	関 係 機 関 や 保 護 者 と	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		クラス担任が参加し、行っている。
22		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要時には行っている。	
23		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		時間を使って医療関係者と連携している。	

の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		緊急時に対応できるように、母を通じて依頼、確認している。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		引継ぎ資料や、必要に応じて巡回を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		引継ぎ表や、学校訪問を必要に応じて行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		回数は多くないが、大府のおひさまとオンライン研修や、法人内同士では、あつたと合同でケースをすることもあつた。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	菜の花保育園とはあるが、このご時世であまりできていない。	・交流のねらいを持ったうえで園庭など共有できる物を利用して、感染に注意しながら交流の機会を検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		担当者が参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡ノートで行っている。伝え方にはもう少し工夫がある。	・ビジネスラインなど新しいツールの活用や、おたよりの写真を非増やすなど伝え方を工夫する。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		親子登園時に関わりなど伝えるようにしているが、コロナ禍で、難しさがあつた。	・状況を見て、ペアレントトレーニングに限らず親子での療育を取り入れていく。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		入園時に行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		丁寧に伝えるようにはしている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		親子登園時や必要に応じて個人懇談を行うようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		コロナ禍で、難しいこともあつたが、ZOOMなどを活用し、行ってきた。	

	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		できる限り対応してきた。	・早受入れ、緊急保育等で対応してきた。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月に一度のおたよりや、行事のおたよりなどで、発信してきた。	・新たな情報ツールを用いて伝えられるよう検討する。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ルビ打ちをしたり、個別に伝えるなど対応してきた。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		コロナ禍により、縮小してバザーやフェスを行った。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	(○)	月に一度、訓練を行っている。	・防犯マニュアルに関する対応訓練は出来ていない。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		入園前や年度初めに、書面で保護者と確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		入園前や年度初めに保護者と紙面で確認し、個別の対応を行っている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事故が起きた翌日の朝礼で周知してきた。ヒヤリハットは、各自記入し、口頭で報告している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○		・研修はできていないが(6/18に研修が予定されている)、事故報告等で子どもにとっての対応については意見交換がなされている。身体拘束の内容は支援計画に記載したり、保育の中で身体チェックを日々行っている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。